

# いのちめぐるまちニュースレター

「いのちめぐるまち推進協議会」あらため ～いのちめぐるまち学会移行版～ | 第1号

## 会費納入のお願い

新年度になったかと思っていたら、あっという間にGWも過ぎ、季節は初夏に入ってきました。会員みなさまにおかれましては、ご多用な時期をお過ごしのことと存じます。年度の切り替えに合わせ、会費の納付をお願いいたします。納付方法は、下記口座宛の銀行振り込みにてお願いいたします。（請求書・領収書のご希望や直接現金での納付を希望される場合などは、担当：小林080-7584-0155または文末のメールアドレスまでご連絡下さい。）

学会専用口座：

GMOあおぞらネット銀行

（金融機関コード0310）

支店名：法人第二営業部

（支店番号102）

口座番号：普通 1048528

名義人：シヤ）サステイナ

ビリティセンター

※南三陸いのちめぐるまち学会の事務局は、一般社団法人サステイナビリティセンターが非営利事業として担っています。そのため、学会会員は、暫定的に一般社団法人サステイナビリティセンターの定款に定める正会員・一般会員・賛助会員として扱って頂きます。ご了承下さい。



## 南三陸いのちめぐるまち学会 第1回大会開催！

2022年10月15日、南三陸ネイチャーセンター（南三陸自然環境活用センター）を会場に、記念すべき南三陸いのちめぐるまち学会の第1回大会が開催されました。現地参加者は86名にのぼり、その内訳は、町内45名、県内20名、県外21名でした。「いのちめぐるまちの現在（いま）とこれから ～ネイチャーポジティブで目指す豊かさ～」をテーマに掲げた大会は、佐藤太一学会長のあいさつを皮切りに4部構成で実施されました。



第1部では<いのちめぐるまちをひもとく>として、震災後のいのちめぐるまちづくりを担ってきた方々の対談、第

## エクスカージョン・研修 会開催

いのちめぐるまち学会大会の翌日10月16日(日)は、工藤真弓さんのガイドによるエクスカージョン「まゆみさんといく過去と未来をつなぐ旅」、そして、岡山大学の福田宏さんを講師に迎えた研修会「学校じゃ教えてくれないいきもの学び直し（貝の肉抜き講座）」が開催されました。

エクスカージョンには22名が参加し、祈念公園から上山八幡宮を歩いて、震災復興に際して公園や松原海岸に託した住民の思いに声に耳を傾けました。



貝の肉抜き講座には、地元の中学生を含め12名が参加し、貝の標本づくりにおいて欠かせない、世界に誇る日本の伝統技法「肉抜き」を体験。貝の多様性と研究者の生態の一端を垣間見ました。



2部＜ネイチャーポジティブで目指す豊かな関係＞は4名の招待講演者に文系・理系の枠を超えた刺激的な話題提供をおこなっていただきました。第3部＜ショットガンプレゼン・ポスターセッション・会員企業展示＞は志津川高校自然科学部による発表をはじめ、賛助会員企業のみなさまにも取り組みを紹介いただくなど、多様なポスター展示を前に交流も進みました。そして第4部＜ワールド・カフェ＞では、いのちめぐるまちの実現に向けたアイデアや、次の学会大会のテーマなど、5つのホワイトボードをめぐりながら参加者全員で話し合いました。最後は慶應義塾大学の岡田英史常任理事の「楽しくなければ学会でない。来年はお友達を連れてきましょう！」というお言葉で締めいただき、次の大会での再会を祈念して幕を閉じました。



その後、いりやどに会場を移して行われた懇親会では、佐藤仁南三陸町長にもおいでいただき、コロナ禍でままならなかった久々のリアルでの交流を楽しみました。大会の熱気さめやらぬ参加者の懇親は、夜がふけるまで続きました。（いりやどのスタッフのみなさま、大変ご迷惑をおかけしました。この場をお借りして感謝申し上げます！）

## 情報交換会開催報告

2023年2月27日(月)13時より、南三陸町生涯学習センターにて、主にブルーカーボンに関する情報交換会を開催しました。周知は、学会HPのお知らせ欄と当センターのFacebookページで行いました。

(本来であれば会員のみなさま全員にメール等でお知らせするところでしたが、事務局の不手際で情報が伝わってない方がいらしたかと思えます。大変申し訳ありませんでした。)



当日は、平日昼間の開催にもかかわらず町内外から23名の会員にご参加頂き、ブルーカーボンに関する感心の高さが感じられました。また、今後南三陸で予定されている大学や環境省のいくつかの研究計画についても説明がなされ、いのちめぐるまちを目指す町の取り組みに対し、研究者からも注目が集まっていることが共有されました。本学会もこれらの研究を積極的にサポートして行きます。(詳しくは右の記事をご参照下さい。) 今後も年に1~2回はこうした情報交換会や研修会を開催していく予定です。会員のみなさまからの情報共有や持ち込み企画も大歓迎ですので、是非情報をお寄せ下さい!

## 第2回大会日程決定!

### 11月23日(木)勤労感謝の日

今年度第2回大会の開催日程が決定いたしました。会場は、入谷公民館のお隣に建つyes工房第2工場といりやどを予定しております。秋も深まり、里の恵みとともに海ではフレッシュな1年もののカキが出回りだす時期です。同時期に開催する[里海里山ウィークス](#) (今年の詳細は夏頃リリースします。学会前後の日程で里海里山をめぐるツアーなどを企画中です。)とともに、南三陸を満喫しながら学会大会で盛り上がっていただければと思います。

「大会テーマ・企画案検討会議にご参加下さい！」

第2回大会のテーマやサイドイベントなどの開催を、会員のみなさまとオンラインツールで議論して行きたいと思えます。ご都合のつく方は是非ご参加下さい。まずは[グーグルフォームのアンケート](#)にご記入をお願いいたします。アンケートはこちらのQRコードからでも回答できます。



## 共創の場および環境研究総合推進費による研究課題が始動

南三陸をフィールドの一つとして実施される大きなプロジェクトがいくつか始まっています。会員のみなさまにも是非お手伝いいただきたい内容が含まれてますので、どうかご一読くださいますようお願いいたします。

一つは国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が公募した[共創の場形成支援プログラム\(COI-NEXT\)](#)です。これは「人が変わる」「社会が変わる」「大学が変わる」を標榜し、ありたい未来の社会像を実現する『拠点』を産官学でつくって行くというものです。この拠点形成プログラムの〈共創分野〉に東北大学が提案した『[ネイチャーポジティブ成長社会実現拠点](#)』が、そしてより地域密着の〈地

## ◇冊子「海の恵みにせまる危機」のご紹介

今、海で起きている様々な異変のわかりやすい解説と、生物多様性やブルーカーボ研究の第一人者のインタビューを掲載した冊子をサステナビリティセンターが製作しました。必要な方には郵送しますので、送り先をご連絡下さい。（本冊子は公益財団法人日本財団の助成により製作されました。）



いのちめぐるまちニュースレター

～不定期発行～

編集・発行

南三陸いのちめぐるまち学会事務局  
（一般社団法人サステナビリ  
ティセンター内）

〒986-0768

宮城県本吉郡南三陸町志津川字御  
前下25

tel : 050-5236-2263

e-mail : [info@m-sustainable.org](mailto:info@m-sustainable.org)

HP : <https://inochi-meguru.net/>

（文責：太齋彰浩）

域共創分野〉には宮城大学の『海山里のつながりが育む自然資源で作るカーボン・サーキュラー・エコノミー拠点』プログラムがそれぞれ採択されました。いずれのプログラムにも南三陸ネイチャーセンターをはじめとした地域企業・団体が参画し、地域での研究が一つの柱となっています。このプログラムは、拠点ビジョンを産官学で一緒に創っていくことが重視されているため、宮城大学のビジョン検討会をネイチャーセンターで3月10日に開催し、学会会員を中心に地域の方にご参加いただきました。現状は、どちらのプログラムも本格採択に向けた育成期間であり、地域の声を反映したビジョンづくりはとても重要です。宮城大学の次の会議は6月8日(木)、8月31日(木)13時よりネイチャーセンターを会場に予定されています。地域のビジョンを一緒に考えたいという方は是非ご参加下さい。

もう一つのプロジェクトは、環境省予算の戦略的研究開発で総勢100名以上の研究者が関わるS-21『生物多様性と社会経済的要因の統合評価モデルの構築と社会適用に関する研究』です。そのサブテーマで、『森里川海の連環を対象とした統合評価・シナリオ分析と社会適用』という研究課題が南三陸で実施されます。先日のキックオフ集会では研究者10名が当町を訪れ、佐藤町長や地域企業の経営者の方々と情報交換を行いました。「漏れバケツ理論」で知られる地域経済循環の調査も実施予定とのことで、産業界からの感心も高まっています。5年間という長期間の研究を成功させるため、まずは地域の方のヒアリングから始めています。6月21日(水)15時から、いりやどを会場にヒアリングを行う予定で、こちらにご協力いただける方を探しています。地域経済の実態や暮らしの実際について教えていただける方は、事務局までご連絡下さい。また、このプロジェクトには、自然科学から人文・社会科学、経済学まで様々な分野の研究者が参加しており、会員のみならず個別にインタビューや調査参加のお願いがいくこともあるかと思います。この研究成果は、地域の持続可能性を高める地域運営をどのようにして決定していけば良いかという意思決定に役立つツールとして提供されていく予定です。依頼があった際は、可能な限りでご協力頂ければ幸いです。

いずれの研究プロジェクトも、これまで以上に地域に役立つことを目標に掲げています。地域側としても未来と一緒につくっていきましょう！というスタンスで臨みたいですね。